

科目名	専門演習 I Seminar I							
科目担当者	明石 真昭 AKAISHI Masaaki							
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年	
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	<p>本演習では、財産法に関する諸問題を検討します。具体的には、民法判例百選1・2 [第8版]等に掲載されている重要判例を素材として、検討を行います。</p> <p>受講生の人数にもよりますが、数名程度のグループを作り、毎回、指定の判例について予習の勉強会(サブゼミ)を行った上で、演習に出席してもらいます。グループ内の報告担当者の報告を聴いた後、残りの時間を使い、全員で討論しながら検討していきます。なお、前半はこれに必要なガイダンスを行う予定です。</p> <p>受講生は、単に指定された百選の解説を読んでもらうだけでなく、テーマに関する判例や文献を収集して十分に検討するとともに、ゼミ中は積極的に発言しなければなりません。なお、勉強のみならず、受講生間の親睦面にも重点を置いて、本演習を一生に亘る仲間作り、多様・多彩な人脈作りの場としたいと考えています。</p>							
授業の到達目標	<p>①資料を検索、収集できる。</p> <p>②資料を読み、課題を検討してレジュメを作成することができる。</p> <p>③報告をもとに議論することができる。</p>							
授業計画・内容	1	ガイダンス	16	判例研究 11 (物権)	2	図書館ガイダンス	17	判例研究 12 (物権)
	3	基礎演習 1	18	判例研究 13 (債権総論)	4	基礎演習 2	19	判例研究 14 (債権総論)
	5	基礎演習 3	20	判例研究 15 (債権総論)	6	判例研究 1 (民法総則)	21	判例研究 16 (債権総論)
	7	判例研究 2 (民法総則)	22	判例研究 17 (債権総論)	8	判例研究 3 (民法総則)	23	判例研究 18 (債権総論)
	9	判例研究 4 (民法総則)	24	判例研究 19 (債権各論)	10	判例研究 5 (民法総則)	25	判例研究 20 (債権各論)
	11	判例研究 6 (民法総則)	26	判例研究 21 (債権各論)	12	判例研究 7 (物権)	27	判例研究 22 (債権各論)
	13	判例研究 8 (物権)	28	判例研究 23 (債権各論)	14	判例研究 9 (物権)	29	判例研究 24 (債権各論)
	15	判例研究 10 (物権)	30	まとめ				
授業外学修 (事前学修)	資料を収集し内容を熟読した上で課題を検討し、報告レジュメを作成する(毎週3時間程度)。							
授業外学修 (事後学修)	議論した内容を復習する(毎週1時間程度)。							
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応		
	演習への取り組みを総合的に評価				100%	①、②、③		
成績評価基準	<p>秀：(評点90点以上)到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点80点~89点)到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点70点~79点)到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点60点~69点)到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点60点未満)到達目標に達していない場合</p>							
教科書	演習時に指示します。							
参考文献	演習時に指示します。							
その他	演習の募集要項を確認し、応募する際は必ず面接に来てください。							